

1. とうもろこしのシカゴ定期は、12月には380セント／ブッシェル前後で推移していたが、米中貿易協議が進展すると期待感から1月には390セント／ブッシェル前後まで上昇した。その後、南米産の順調な生育により豊作が見通されていることや、新型コロナウイルスの感染拡大による需要減退の懸念から下落し、現在は320セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、米中貿易協議が進展すると期待感から12月から1月にかけて330ドル／トン前後で推移していたが、南米産大豆の豊作見通しや新型コロナウイルスの感染拡大による大豆需要の減退懸念などから320ドル／トン前後まで値下がりした。その後、アルゼンチンが大豆粕の輸出税引き上げを発表し、大豆粕需給が引き締まるとの見込みから上昇したが、新型コロナウイルスの世界的な流行を受けて再び軟化し、現在は320ドル／トン前後で推移している。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、11月には50ドル／トン前半で推移していたが、排出ガス規制対応で設備の導入工事に入る船が増加したことによる船腹需給の引き締めから、12月には55ドル／トン前後まで上昇した。その後、原油相場が軟調となったことや、鉄鉱石の輸送需要が一段落し船腹需給が緩和したことから40ドル／トン前半まで下落したものの、南米産大豆の輸送需要が増加することから45ドル／トン前後に上昇した。3月に入り、新型コロナウイルスの感染拡大から石油需要減少による原油相場の急落や荷動きの低下から下落し、現在は30ドル／トン前半となっている。
4. 外国為替は、12月には109円台で推移していたが、好調な米国の経済指標を背景に円安がすすみ、一時112円台をつけた。その後、新型コロナウイルスの感染拡大による景気悪化懸念により世界的に株価が暴落したことなどから102円前後まで急激に円高がすすんだものの、安全通貨としてドルへの需要が増加したことから円安となり、現在は107円前後となっている。

